

## 学位論文及び審査結果の要旨

氏 名 MUHAMMAD ASHRAF JAVID

学位の種類 博士(学術)

学位記番号 工府博甲第399号

学位授与年月日 平成25年9月26日

学位授与の根拠 学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号)第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項

学府・専攻名 工学府 社会空間システム学 専攻

学位論文題目 A study on investigating the influencing factors in integrating Transportation Demand Management measures in developing countries: A study in Lahore  
(発展途上国における交通需要マネジメント思索実施に与える影響要因に関する研究 -ラホール市を事例として-)

論文審査委員 主査 横浜国立大学 教授 中村 文彦  
横浜国立大学 教授 椿 龍哉  
横浜国立大学 教授 勝地 弘  
横浜国立大学 准教授 松行 美帆子  
横浜国立大学 准教授 田中 伸治  
東洋大学 教授 岡村 敏之

## 論文及び審査結果の要旨

途上国では、所得の向上や自動車・自動二輪価格の低下、ローンの普及などにより、自動車や自動二輪などの私有交通手段の普及が進む一方で、公共交通システムの向上が進まない都市が多い。本研究は、現状の道路混雑が激しく、現状の道路整備水準・公共交通サービス水準がともに低く、さらに今後の自動車・二輪車の保有の大幅増が予想される、一人あたり GNI1000 米ドル台の途上国大都市を想定して、さまざまな交通需要マネジメント(Travel Demand Management: TDM)施策に対する、多様な属性の人々の受容意識を明らかにすることを目的としている。対象都市として、上記の条件にあてはまるパキスタン国ラホール市を選定した。本研究では、1980年代以降に先進国で進められてきた「既存インフラの有効活用と、ピーク需要の時間的空間的分散」を中心とする TDM 政策をレビューしたうえで、インフラ不足と絶対的需要の増加、自動車保有者の強い自動車依存意識という

途上国の特性を考慮した、途上国型の TDM 政策のメニューを整理したうえで、現地でのオリジナルのアンケート調査をもとに、以下の分析を行った。

- 1) 職業ドライバーを対象とした、ラジオの道路交通情報サービスの利用状況と利用意識
- 2) 中所得者(現状の自動車保有者と将来的な自動車保有者を中心)を対象とした、公共交通と TDM 施策への受容意識と、ライフスタイル意識との関連分析

これらの分析から、主に以下のことを定量的に明らかにした。①道路混雑情報の活用の仕方は人々によって大きな差異があり、それには情報リテラシーが大きく関係していること。②公共交通の質が高ければ、自動車利用者層からのある程度の転換が期待できること。③中・高所得者の自動車依存意識が高い人々は、自動車利用コスト(金銭・時間)が仮に2倍になったとしても現状の自動車利用形態を継続する意識が強いこと。

これらの成果から、ラホールでの短期・中期・長期それぞれで行うべき TDM 政策を整理し、他の途上国大都市への本研究での分析手法の適用可能性について示唆を行った。途上国において、幅広い個人属性の被験者への調査をもとに包括的に TDM 政策のあり方を整理した既存研究は少なく、オリジナリティ、有用性ともに高い研究といえる。